

# 釜ヶ崎ジュークボックス調査報告④

一九七四年一月

中原哲也

おれたちのなかには「うた」が大好きな者が多い。仕事を終えて現境近くの酒屋で一杯ひっかけるとき、釜に帰ってきて夕子とのみ屋でジュークボックスにかかっているのにあわせて、また、風呂で、通りで、大声でうたう。自分であつたわなくても、うっとりとかかっているヤツにきまほれている。

おれたちの好きな「うた」、それは戦歌が多い。昔々、殊々困民党やその他の自由民権運動のなかで、仲間に対する訴えが呼びかけ（演説）にフシをつけてうたったのが、戦歌の始まりという。たまたまいの中で多くの血が流された。一時的に隔つことはあつたが、負けつづけやられつづけ、そして現在だ。戦歌は、悲しみ・くやしさをさびしさもうたう戦歌となつた。昔の演歌の気持はむしろ、水前

泣くかわりにうたうことと人々は耐えて生きる。戦歌は未だ種々不ロレタリアートのインナーなんだよ、と作家五木寛之はその作中人物に語らせたが、まったくその通りだ、というようなことと私は前にも書いたことがあつたが、ここでは、どうみるか、より、どうであるかをまずみていきたい。

さつきも書いたけど、批判精神を失なつてしまつた演歌よりも、戦歌の方がおれたちの心をあらわしている。それは、親へ家へを指さすすらい、悪い代官をうちにく、浪曲節の世帯だ、仁徳演歌でも、金と女と云々、とか立身出世ものは、はやらない。女の男へのいぢすな愛をすてられてもすてられてもうたうよななものもある。終じていえは、どちらかといえはマイホーム主義的なものではなく、どちらかといえは神風特攻隊精神的なものが多

い。でも、ジュークボックスの選曲なんてのは半分は客の好みだが、もう半分は、店の主人

寺清子なんかのうたうへほとんどやれ男なら人のやれないことをやれ、とかへ一日一歩三日で三歩、三歩食んで二歩さがる、に、形懸たけたけど、うけつがれている、ともいう。でも、おれたちのなかには、そんな演歌より戦歌の方が好きだという方が多い。当り前だ、へ一日一歩、なんてぐあいに、うまくいったためしがない、また、いくはずもない、せ二もうけに取らず、全部だ。丁と思えば、北当りと思えばはずれ、とかくままならぬ。北島三郎、美空ひばり、森進一に都はるみ、みんな好きだ。世の革新を自称する人々のなかには、それらも、何のかんのと理屈つけて、やれ低俗だ、下品だ、と非難するまきもあるが、こればかりは理屈じゃない、一目ぼれのたぐいの感情だから。

なりネエさんの好みだ。そして客の方は、ハシゴ通する時は自然と、自分の好きなうたの面こえる方へ足を向ける。結局、歌は世につれ、であり、客はジュークボックスにつれた。

全体をおみざつぱにみると、三角公園から南船場通り付近、銀座通りの一部に、差別的な、なつメロというの、戦歌といつか、が多い、そしてどちらかと言えば、喫茶店よりもみ屋だ。典型的なところをあげてみよう。

I のみ屋へふるさと（南船場通り西端区少し南へ行つたところ、ホルモン屋の向い側にあたる）

- （ここは五〇円で二曲、一〇〇円で四曲。）
- 女のみち・沖繩のひと（みんからトリオ）
- 根辻松の一生・度胸千両（村田英雄）
- 九段の母・ああわが野友（春日八郎）
- なみだの痕・愛明人情（殿さまキングス）
- 腕に祈る・熱砂の誓い（伊藤久男）



吉と兵隊・上海だぶり (栗海林太郎)  
哀曲人生・魂止泉気質 (上原敏)  
おんなな船唄・あの浪が泣いている (三橋美智也)

又しありだね・星の運 (和田治治)

別れ船・大和根月夜 (田端義夫)

女のちかい・悲しき流浪 (びんから兄弟)

夜郵・旅笠道中 (赤木圭一郎)

目ん黒い千鳥・新巻鏡 (大川栄策)

夫婦鏡・別れ橋 (殿さまキンクス)

わたし祈ってます・医女私

(ハッピー＆ブルー)

名月夜太郎ぶし・出世位地情話 (三波春夫)

人生の並木路・旅者三人男 (石原裕次郎)

赤いランスの終列車・ギター流し (春日八郎)

番場のお太郎・刃傷松の廊下 (夏山一郎)

旅籠・裏通り (五木ひろし)

胡弓の宿・懐しのスルース (高峰三枝子)

月の玉善寺横丁・初めて来た港 (藤島恒夫)

花一輪・夢は夜ひらく (藤島恒夫)

なみだ恋・雨のカフェテラス (八代亜紀)  
しあわせ音頭・花びら囃子 (青江三奈)

(大川栄策・金田たづえ)

河内音頭・河内十人斬り (飯塚光三郎)

青い青丘で・酒は涙か溜息か (藤山一郎)

高瀬列車は行く・あこがれの郵便列車 (岡本敦郎)

愛の赤色・悲しい夢 (八代亜紀)

兄弟仁義・つらい恋だよ (北島三郎)

官有ち・浜千鳥 (田端義夫)

表巻列車・君は羽鳥より鳥 (三橋美智也)

ラパウル小唄・加藤車輪脚隊 (春日八郎)

悲しい酒・真実一途 (美空ひばり)

同知の村・愛鳥連軍歌 (伊藤久男)

ひばりに慕ふ・父の道を行く (美空ひばり)

嵐城新・黒田節 (三橋美智也)

明治一代女・むらさき小唄 (天津羽衣)

新道どたち・愛情の街 (津山洋子・大木英夫)

大阪橋筋・盛り果のおんな (北森圭介)

真町酒場・花は散りゆく (西田佐知子)  
おんなのさだめ・おとこ道 (殿さまキンクス)

京都坂雪の列れ・旗中軒雲石工門とその雲 (三波春夫)

おんなの海峡・さよなら電話 (都はるみ)

無情の夢・君恋し (石原裕次郎)

大和根月夜・残月大和根 (三波春夫)

渡曲子守唄・一花節 (一節太郎)

さめんね・これが愛なのさ (小林旭)

唐獅子牡丹・男涙の雨が降る (高倉健)

湯の町エレジー・女の胸のうち (大川栄策)

誠・やってこな (北島三郎)

工テンの東・遙かなる山の呼び声 (せりターヤンク)

くちなしの花・通りさんせ仁義 (渡哲也)

東京ナイトクラブ (フランク永井)

再会 (松尾和子)

別れの一本杉・雨降る街角 (春日八郎)

伊勢佐木町スルース・霧のハイウェイ

出世子守唄・三味線峠 (一節太郎)

赤いクラス・哀愁の人 (アイ・シヨージ)

カズバの女・赤い夜 (天たまき)

国境の町・上海の街角で (東海林太郎)

サイパン小唄・包行をすてて各駅にのりかえ

ると (三橋美智也)

上海船りのリル・銀座の囃 (パリス佐竹)

この世の花・おもいでの花 (島倉千代子)

好きだった・ハワイの夜 (藤田浩二)

夫前春秋・楽しからず友きたる (村田英雄)

すみだ川・築地明石町 (島倉千代子)

十三の夜・車窓小唄 (藤田まこと)

好きになつた人・夜の海に采たの (都はるみ)

笠ヶ崎人情・お天道さん見ててんか

(三音英文)

夜霞のフルース・上海スルース (石原裕次郎)

わけ・ゆめ (平条きよし)

うわさの小唄・青頭No.5 (栗沢ジュン)

岸壁の母・九段の書 (菊池章子)

愛ひとすじ・別れのフェリーポート



(八代亜紀)

同期の船・野良よ安らかに (歌田浩二)

他人船・おんなの酒 (小野由紀子)

リンゴ林から・田舎取雪 (三橋美智也)

別れの夜明け・立き砂浜

(石原裕次郎・八代亜紀)

ふるさとの燈台・かえり船 (田端義夫)

六段(一)・六段(二) (宮城道雄)

(12/31現在) 以上

どうだ・なかなか工工やろう。私などはゴキゲンなのだ。ほかに、この近くでは、のみ屋ヨッふるぎや(もう少し申、四ツ角のところ)、喫茶店ヨッふる(その中向、というより「ふるさとの」の隣なのだ)などがよい。なおヨッふるは森進一がバツチりぞろ、ている。また、人数が少し多いときには、のみ屋ヨッふる(けいさつ裏の海庭公園の南側)の奥のテールへ行くとい。テッカイ特別のシユークボククスがあり、同じような選曲だ。最後に一言、ヨッふるさとは、家の少な

い時は、奥の方にある四トラックのカーターを面かせてくれる。一本で一六曲くらいはいつていて、二〇〇円だ。歌田浩二なんかのがそろっている。これもゴキゲンののだ。

II 喫茶店ヨッふる(銀座通り、けいさつ南側なり)

ここはたしか六曲一〇〇円、三曲五〇円、セツトと思う。一〇〇円で六曲のところと四曲のところとが、今のところ半々ずつ位だ。なつメロ一本でなければ、だいたいこんな選曲になっている。そしてIの方とちがって時々入れかえているようだ。

別れの夜明け (石原裕次郎・八代亜紀)

立き砂浜 (石原裕次郎)

アケミという名でナハで、別れ即(千賀夫)

さらば友よ・妹よ (森進一)

フオーティ・エイト・クラッシュ・リトル・ピッチ

スル (スーシーウアトロ)

銀座の鎖・子猫とネズミ (西条秀樹)

(平和橋次とマークホース)

男のみち (フラワーショウ)

美理のしがらみ (ばら・伊たん・ゆり)

ゲット・レディ・マジック・キー(レアアース)

なみだ恋・雨のカフェテラマ (八代亜紀)

女のゆめ・渡り鳥 (ひんからトリオ)

円舞曲(ワルツ)・女の旅(あきなみ)

さすらいのキター・シュガー・シュガー

(サベンチャース)

○ 飯場のキター

飯場が一番よく見かける楽番はキターだ。季節のいい夕方など、仕事の終わった野丁探さキターをつまみきしてやるやつのは、いかにもうっとりしている。そしてそのまわりに、飯場のアネコなんかまでが、もっと恍惚とした顔で集まっていたりする。持ちはこびの点ではハイモニカが一番便利ははずだが、ハイモニカを鳴らしてやるやつはほとんど見かけない。

みれん・恋人 (五木ひろし)

日曜者・いのち (歌田浩二)

愛しい恋・愛恋 (西条秀樹)

ゲット・バビク・フロント・レット・ミー・タウン

(セートルズ)

妻切り者のテーマ・サンシャイン

銀座フル・ナイト・大阪のセ (青江三奈)

ちぎれた愛・孤独のふたり (西条秀樹)

忍び雨・みれん花 (藤正樹)

恋み節・女の呪文 (榎芽衣子)

ひばり仁義・この道を行く (美空ひばり)

あなただけがほしい・よろしく言ってたせ

(ひんから兄弟)

旭いうち・夢が承れて (山本リンタ)

明治一代女・博多夜船 (美空ひばり)

目撃野い千鳥 (大川栄策)

新妻鏡 (アントニオ古賀)

ふるさと・丘の上の赤い花 (五木ひろし)

度間千回・逢いたかったせ (金田たつえ)

定石節門町フルース・五人の彼女



藤巻研・世指人唄 (森進一)  
 赤坂の子守唄 (石川信雄・城山 (東条林太郎))  
 おんなのま・未練恋 (八代亜紀)  
 恋えよドラゴン・セリッパトル (サウンドトラック)

ハイフライイン・太陽の遠方へ  
 10番目の鳥人・キララドン (ザパンチャース)  
 しのびき・みれん雨 (八代亜紀)  
 クレイジー・ホース サッツマイカール (オズモンズ)

影を舞いて・罎の純情 (美空ひばり)  
 なみだの埃・憂曲人情 (殿さまキングス)  
 二人でお酒を・両手を廻して (岸みちよ)  
 うそ・指輪をはずして (中条まよし)

ほかにもいろいろ行ってみた。全曲うつし  
 たところなんてのはあといつか二つしかない  
 が。だいたいの感じをいえば、のみ屋では、  
 エエ曲がかかっているところは酒が高いかま  
 すいかどっちかじゃないかと思う。でも通な

四曲が、笠ヶ崎ヒット曲ベスト四のようだ。

※なお、( )内はうたった人数。

網走番外地	(4)	兄弟仁義	(3)
笠ヶ崎人情	(2)	波曲守唄	(2)
名月赤坂山	(1)	ひえつき節	(1)
悲しい恋	(1)	人生の並木路	(1)
僕たちの人生	(1)	相馬盆唄	(1)
涙の連絡船	(1)	江州音頭	(1)
大粒積月夜	(1)	目撃無敵千鶴	(1)
河内音頭	(1)	河内遊侠伝	(1)
笠ヶ崎節	(1)	夫婦鏡	(1)
女のみち	(1)	星の流れに	(1)
アター仁義	(1)	おぶくろさん	(1)
度胸千両	(1)		

以上。ただしこれはその場で記録したもの  
 ではなく、おわってから同業者が記憶によ  
 って書いたものなので、一二曲めけているか  
 も知れない。  
 今月号は月録のうちが別冊でついている。  
 それぞれで利用して下さい。

んてのは、気分のもんせから、そんなマイナ  
 スを引いてもヤ、はリイイのだ。そして行っ  
 てしまふのだ。たとえオケラになろうとも、  
 明日は明日の風が吹く、  
 ついでに書くと、横浜・寿では笠ヶ崎と回  
 じようにシユークをビヤンジャンかけて外ま  
 で向こえるようにしているところが多いが、  
 東京・山谷では少ないという。またのみ屋で  
 うたったりしても笠ヶ崎では大声でもなんと  
 もいられないが、山谷はだいたいい静かにのん  
 でいる。なせだろうか。

Ⅲ 第三回笠ヶ崎夏まつりのと自信 (一九  
 七四・八・一九、於三角公園、主催、夏  
 まつり実行委)

それでは、直ぐ撮合をなく自分であらう明  
 はどうか。ちょうどここに記録があるのを知  
 介しよう。今までのものと自信大会では、圧倒  
 的に「波曲守唄」「笠ヶ崎人情」が多く、  
 次の「網走番外地」「兄弟仁義」とあわせた

おれたちの雑誌『労務者渡世』を売っているところ

① 笠ヶ崎労働者生活協同組合

② 千石書店 電 631-2456  
 せんごくしや  
 毎月8日発売